はりえんじゅ

坂井輪診療所健康友の会
五十嵐支部
合同通信　№ 174　2021. 8. 5
〒 269-2339
会員世帯数　210 世帯（4 月 1 日現在）

夏に鍛える。健康作り怠りなく。

山形県の蔵王山へ行ってきました。乗用車３台に分乗して、早朝５時４５分、大光銀行前まで、迎えに来てもらって、日帰りの山行でした。刈田岳は、その山頂まで車で行けるのです。そこから熊野岳までの往復です。歩行距離、は、一万歩。標高差は、約１００㍍。刈田岳では、眼下に蔵王の噴火口お釜が、深い緑色の水をたたえていました。

熊野岳には、斎藤茂吉の歌碑がありました。茂吉は、夏休みには、家族で、この登山を恒例にしていたそうです。途中、コマクサが、ガレ場のそこここにたくさん咲いていました。山の夏は、もう過ぎたのか、他に見るべき高山植物も話題になりませんでした。

「山高きが故に尊からず」

参加申し込みをするときは、自分の年齢や、体力を考えて迷います。何とか行ってこれて、安堵しました。

介護・医療よろず相談は

「地域包括支援センター坂井輪」℡２６９－１６１１へ

五十嵐中学校区・坂井輪中学校区の皆さんの窓口です

坂井輪診療所
断らない診療、続く初心に感動

新潟勤労者医療協会設立７０年記念誌が刊行されました。「わたしたちは、戦前の無産者診療所（当時の農民など貧しい人たちのための医療機関）の伝統を引き継ぎ「いのちと健康は無差別・平等であるべき」という理念のもと、患者の立場に立って親切で良い医療を行うことを目的に、地域住民の力で設立されました。

坂井輪診療所は、凄いことをやっているのだと感動しております。７月の幹事会に、県本部の白井さんが来られて、分厚い記念誌を持参し、新潟勤労者医療協会の歴史と理念を語ってくれました。坂井輪診療所は、当たり前だけれども当たり前ではない立派な理念と歴史を背負って実践しているのだと改めて思い知らされました。

坂井輪診療所は、すごいことをやっているのですね。２０２０年１月頃からコロナ禍での発熱外来。「玄関前に駐車した車の中」でそして、診療所二階の会議室へ昇る階段の下のスペースを利用して診察だなんて、驚きます。その他、状況に応じて、診療所内の配置を動かしたり,待合室の掲示物を工夫したり、工夫を凝らして、コロナ禍での診療を続けてきているのですね。誇らしいことですね。仲間を増やして、健康づくりに取り組みたい。

健康余話

「接種、躊躇する若者」

後遺症が、怖くてやらない人もいると聞く。高齢者が、接種して見せたんだけれども安心できないらしい。それにしても、ワクチンが間に合わないじゃないか。

今後は、陽性者も軽度の人は、自宅療養にするという。これまで、自宅療養中に容態が悪化して、入院先を探しても、見つからず、間に合わなくて命を落としたということもあったのではないか。

八月の読書会はお休みです

9月の課題図書は、「暗夜行路」
志賀直哉著　（新潮文庫）
期日　令和３年９月16日(木)
九時半～十一時半
会場　寺尾上町自治会館 2階和室

■はりえんじゅ6月号に“今度こそNoism”と自戒を込めて紹介したところ、お出かけになった方が居られて感激しました。

早速、鑑賞記を寄せていただきました。紹介します。

ノイズム「春の祭典」感動しました

最近はコロナ禍が日常でマスクは顔の一部みたいな日々を送っています。外出も人との交流も控えていてでは、精神的にも肉体的にも限界があります。体力の衰えはそれなりに歩いたり体操したり、日々努力はしていますが、心の衰えは自覚しにくいものです。

7月は長女の誕生月なので「ノイズム」の7月公演をプレゼント。二人でゆっくり鑑賞してきました。

中でも「夏の名残のバラ」は映像舞踏で圧巻でした。心が洗われるようでした。様々なことを思い考えとても充実した一時でした。ゆったりとそこに身を置き、今その事だけ。

なんと贅沢な時間だったことでしょう。

生きることには、芸術文化は、必需とつくづく思いました。新潟から「ノイズム」の火を消さないでほしいと切に思いました。

心身ともに健康で良い人生を送りたいと思います。　（S.Kurasawa）